

米国 今年のリンゴ生産量は105億ポンド(480万トン)を超えると予測

The Packer 2023年8月18日

米国リンゴ協会(同協会)が8月18日にシカゴで開催された同協会の2023年度展望会議で発表した新しい報告書によると、米国のリンゴ業界は引き続き好調であり、豊富なリンゴが消費者に供給されると見込まれる。

同協会の「業界展望2023」報告書は、米国及び世界のリンゴの生産、利用、貿易に関するデータと分析を収録している。ニュースリリースによると、同協会のクリス・ガーラッハ業界分析部長が執筆したこの報告書は、政治的逆風から気象災害まで、米国のリンゴ業界を取り巻く傾向と状況を詳しく調べている。

リンゴの総生産量 同協会が米国農務省のデータを分析したところ、2023-24作物年度の米国のリンゴの総出荷量は2億5千万ブッシェルと予測される。リリースは、これは、昨年のお荷量と比較して1.5%の増加に相当するとしている。この数字は、リンゴ生産上位7州のみを調べる農務省のデータよりも包括的である。リリースによると、同協会は上位7州以外の州からの出荷量を分析し、それを農務省の数値に加えている。

ガーラッハ氏はリリースで、「リンゴの上位生産州の大幅な増減があるが、全米の生産量が昨年の数字に匹敵するだけでなく、それをわずかに上回ることを嬉しく思う。消費者が入手できる高品質の米国産リンゴは確かにたくさんある」と述べている。

上位品種 リリースによると、上位5つのリンゴ品種は次のとおりである。ガラ - 4,600万ブッシェル、レッドデリシャス - 3,100万ブッシェル、ハニークリスプ - 2,800万ブッシェル、他の品種 - 2,500万ブッシェル、ふじ - 2,500万ブッシェル。(米国リンゴ協会の報告書では1ブッシェル=42ポンド(約19kg))

品種レベルでは、ガラが4,500万ブッシェル以上生産され、米国のリンゴ市場の約18%を占めるトップの座を維持するとリリースは予想している。今年のトップ5には「その他の品種」が含まれている。リリースは、「他の品種」が生産量トップ5品種に入るのは、あらゆる種類のリンゴに対する消費者の欲求の高まりの現れだとしており、またグラニースミスが2,460万ブッシェルで惜しくもトップ5を逃したことも指摘している。

ガーラッハ氏は、「本日の展望2023のプレゼンテーションで、消費者の48%が、買い物をするたびに同じ品種のリンゴを購入すると回答していることを知った。つまり、買い物客の52%は、食味、外観、店舗での販促など、さまざまな属性に基づいてリンゴを購入する可能性がある。ほぼ50対50に割れており、生産者は消費者の身近なお気に入りへの愛着を利用したり、何か新しいものを販売したりする機会がある」と述べた。

リリースによると、レッドデリシャスは依然として2番目に多く生産されているが、その生産量は5年間で急激に減少している。この品種は、2018-19年度のお荷量と比較して42%、つまり2,300万ブッシェル減少した。逆に、ハニークリスプのお荷量は同期間に46%、つまりほぼ900万ブッシェル増加した。

上位生産州 州レベルでは、ワシントン州は20億ドル以上に相当する1億6千万ブッシェルを生産して、引き続き米国内トップの生産州であると見られる。これは、2022-23作物年度からの23%の増加を表している。昨年は過去最高のお荷量であったミシガン州の生産量は、15%以上減の2,740万ブッシェルと予測される。しかし、ニューヨーク州が晩春の降霜に見舞われ、生産量がほぼ19%減の2,620万ブッシェルとなるため、ミシガン州は第2位の座を維持すると予想される。報告書によると、このほかのリンゴの生産量が多い州は、ペンシルベニア州、カリフォルニア州、バージニア州、オレゴン州である。

リンゴの貿易 報告書によると、2022年の生鮮リンゴの輸出量は合計3,620万ブッシェルで、2021年の水準から7%減少した。同時に、生鮮リンゴの輸入量も13%近く減少して530万ブッシェルとなった。

米国は依然として健全な正味プラスの貿易収支を維持しているが、リリースによると、総輸出量が4,850万ブッシェルで、純輸出量が4,160万ブッシェルであった2018年の最高水準に戻るには、多くの取組みが必要である。

ガーラッハ氏は、「インドが米国産リンゴに対する20%の報復関税を撤廃したという最近のニュースがあり、その重要な市場を再構築するのに連れて、輸出数が増加し始めることを期待している」と語った。